

## 子どものメンタルヘルスケアに関する検討会 第1回議事録

平成24年10月6日(土) 12時45分~14時30分 市民交流プラザ会議室

出席者（敬称略）

成井香苗	安藤博	安司美代子	堀田隆
吉川和夫	荻野由則	高岡厚子	伊藤啓子
遠藤利子	渡辺久子	菊池信太郎	野口雅世子

### 議題

1. 自己紹介
2. 検討会趣旨説明（菊池信太郎マネージャーより）

- 1) 郡山市における子どもたちの現状
- 2) 震災後子どものケアプロジェクト設立について
- 3) 子どもとその保護者が抱える心の問題点

### 3. 検討会リーダー指名

福島県臨床心理会副会長 成井香苗氏を指名

### 4. 議題

#### 1) 子どものメンタルヘルスに関する必要事項の確認

- ・現在の子ども、または保護者が持っている不安や悩みの内容が分からない  
国や県でのアンケートが行われているが、今までのものでは、“平均値”しか出せない。  
→浜松医大（福島県教育委員会）のアンケートが行われる。  
個人対象で、以後学級での相談に応用できるかも。  
しかし、内容が発達障害児の攻撃性に関するものであること、専門家による相談は医療の介入が必要であることなどから、不十分である可能性がある  
→現状では、前学期末に行った校長会でのアンケートが貴重な情報をもっている。  
→要介入児への対策は現在、校長会で検討中のこと。  
・幼稚園、保育園児では全く状況がわかっていない。  
・外遊びができない事で、転びやすい、歩き方が不自然、姿勢が悪いという園児が見られる。  
特に0~2、3才児が生まれてから一度も大地を踏みしめたことがないということは、  
将来どのような影響を及ぼしていくのか、甚だ不安である。  
・保護者の外遊びに対する不安がまだ根強く残っており、個別対応に苦慮している。  
・ペップで遊んでいると、外遊びが出来なくなるのではという不安をもらう保護者もいる。  
・広い場所で思い切り、外遊びをさせたい。  
・それには、小中学校の除染された校庭を放課後や休日に市民に開放してもらうとよい。  
乳幼児を持つ保護者が、近くの線量の低い校庭で遊ばせることができたら効果的だろう。

#### 2) 当検討会の役割

- ・実際に困っている人達は、小さな子どもたちを持つ保護者と、幼稚園、保育園、  
小学校の関係者だけが子もっているのが現状だろう。  
→子供たちや保育の現場の状況を市民に発信する必要がある。
- ・個々の子どもたちの状況を把握し、その成長度、発達度を経時的に追っていく必要がある。  
→例えば、個票（母子手帳の様な冊子）を作成し、保護者ともに関係者が子どもの育ちを把握し、  
地域が子どもたちを育てていくという、気持ちが今後必要と思われる。

### 3) メンタルヘルスケアの体制づくり

- ・結論的には、とにかく就学前の児童への支援が急務であろう。
- ・例えば、学校であればスクールカウンセラーがいたりするが、保育園、幼稚園では、各園に任されている。全体として包括的に把握しているところが無いため、情報が集まらない。  
保育士に対する研修などを含め、プロジェクトとして特にこの年代への支援をまず優先的に行ってはどうであろうか？

## 5. その他

- ・菊池マネージャーより

小中学校で体力テストが行われた。

今後必要な事は、個々のデーターを家庭に戻すとともに、家庭での取り組み、認識が重要となる。

その一つの情報として、普段の運動関係の様子、食育環境の状況を把握しておく必要がある。

現在、4歳から15歳までの市民全員に対するアンケートを準備している。

是非、10月中にも実施したいと考えている。

- ・次回開催日未定

## 配布資料

- ① 全体資料
- ② 運動や遊びについてのアンケート
- ③ 食事についてのアンケート
- ④ 保護者からみた子どもの心と身体のアンケート